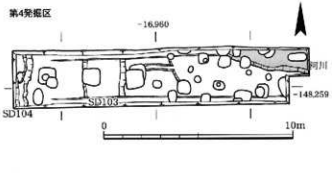
第1発掘区　全景（東から）

第2発掘区　全景（西から）

第4発掘区　全景（東から）

第3発掘区　全景（北から）及び　遺構平面図　1/200



第4発掘区　遺構平面図　1/200

性が高い。

SD103　第4発掘区西半で検出した、幅約2.2m、深さ約0.2mの南北溝。この溝の下で比較的大型の柱穴を検出しているため、この溝が東三坊大路の東側溝もしくは築地の雨落溝となる可能性は低いように思われる。奈良時代後半の遺物が出土した。溝心の座標は、X＝－148,259.0m、Y＝－16,962.8mである。

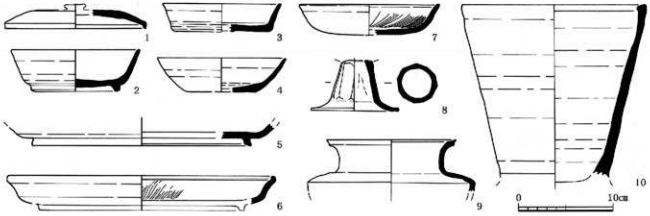
SD104　第4発掘区西壁沿いで検出した、幅約0.7m、深さ約0.1mの南北溝。北半はやや不明瞭。溝心の座標は、X＝－148,259.0m、Y＝－16,967.05mである。

SK101　第1発掘区中央で検出した。東西約2.0m、南北約1.8mの平面長方形で、深さ約1.5mの土坑。枠材等は存在せず、井戸掘形かどうかは不明。掘り込み面からみると少なくとも平安時代以降のものと考えられる。

SK102　第1発掘区西壁にかかる、直径約1.8m、深さ約1.2mの平面円形と考えられる土坑。第1発掘区西端付近の整地土層の上面から掘り込まれている。

SK103　第3発掘区の南壁にかかる、東西約1.5m、南北1.0m以上、深さ約0.5mの平面隅丸方形状の土坑。第3発掘区南端にかかる溝状の落ち込みが埋まった後に掘り込まれている。ガラス玉の鋳型が出土した。

その他、第1発掘区東端付近には斜行する河川があり、今回掘り下げてはいないが、奈良時代より古いものと考えられる。これと同じ方位をもつ斜行溝が同区中央部に認められるが、時期は確定できない。同様の古い河川は、第4発掘区東側にもみられ、同一のものの可能性がある。



SD102出土土器図　1/4

鋳型（ガラス小玉鋳造用）写真及び図　1/1

Ⅳ. 出土遺物

出土遺物は、整理箱約140箱分があり、予想に反して瓦の出土は少なく、塔跡周囲でもほとんど瓦は出土しない。瓦の大半は第2発掘区西端付近のものである。

主な出土遺物は、丸・平瓦、軒丸・軒平瓦、熨斗瓦、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器で、特筆すべきものとしては、ガラス小玉鋳造用の鋳型がある。また、第1発掘区西半では、奈良時代の遺構面の下層から弥生土器やサヌカイト製の石器が出土している。

軒丸瓦は49点で、ほぼ6138C型式と7251型式である。軒平瓦は57点で、ほぼ6712A型式と6712B型式である。この出土状況を見る限り、時期的に考えて6138Cと6712Aが、7251と6712Bがそれぞれセットで用いられていた蓋然性が高いように思われる。

土器については、比較的まとまって出土したSD102のものについて述べる。1は須恵器杯蓋。外面および縁部にかけてはロクロナデ、内面は不定方向のナデ調整。2は須恵器杯B、3・4は須恵器杯A。三者とも底部外面はヘラキリのままである。5は須恵器皿B。内外面とも丁寧なロクロナデ調整でかなりきめ細かい肌触りとなっている。6は土師器皿で、口径の大きさから皿Bになると思われる。口縁部は短く内側に返り、体部はゆるいS字状を呈す。内外面ヨコナデ調整で、暗紋を施す。7は土師器杯A。口縁端部はややつまみ上げたようになっている。内外面ヨコナデ、底部外面ユビオサエで、暗紋を施す。8は土師器高杯。杯部とは接着面ではがれている。ヨコナデ調整の後、面取りを行っている。9は須恵器壺Q。10は須恵器鉢F。内面は白く、外面は黒い。底部外面には爪痕が残る。

11は、SK103から出土したガラス小玉鋳造用の鋳型である。素焼きの土製品で、11個の玉型が残る。図の右辺は鋳型の端部が残っており、これに対し型の列は斜めに4列並んでいる状態である。玉型の直径は約0.5cm、深さ約0.3cmで、玉の孔となる芯棒を立てる穴の直径は約0.1cmである。

V．まとめ

各発掘区には柱穴と考えられる穴がいくつかあるが、発掘区内で完全にまとまるものはない。第1発掘区では、SD101近辺に柱穴が多く、柱根が残るものもある。第2発掘区西壁際では、瓦堆積層下から大型の柱穴（もしくは小型の井戸か）を検出したが、位置確認にとどめている。第4発掘区では、整地土層の上下で柱穴を検出した。南北棟の一部と見られるものが多く、3時期以上の建て替えがあったようである。特にSD103の下から検出した東西2間の柱列は、南北棟掘立柱建物の妻柱列の可能性が高く、この付近まで建物が建てられていたことが明らかとなった。

溝についても、今回の発掘区で全容が捉えられるものはない。SD101は残存状態は悪いが、小礫が敷かれた溝の可能性が高く、塔院を東西に分ける道路等の存在が予想された。しかし、対となる溝や明らかな路面は確認できなかった。位置的に見ると、大安寺南大門の中心線が、Y＝－16,847.82mであり、溝心はこれより4.6m東に寄っており、現状では、この溝が塔院の施設に関係するものとは考えにくい。

第1発掘区西端の整地部分の東端にも南北の溝を検出したが、この溝は整地土層の下から掘り込まれており、整地上層の一部は、この溝を超えて若干東へ広がっていることが、壁面の土層から確認できた。したがって、この溝は整地を区切るものでもなく、時期的にも不明なものであるため、今回、扱いを保留しておいた。

第2発掘区で検出したSD102は条坊側溝の可能性があるものである。北側が発掘区外となるため、確実に溝であるかどうかは言い切れないものの、当調査地東方で行った平成12年度の市DA91次調査においても、X＝－148,280m付近から北へ落ちる溝が検出されており、坪境小路南側溝の可能性が高いと判断されている。出土遺物は奈良時代の中頃と考えられるものであり、その頃この溝が埋められたとするならば、塔院の建設は、奈良時代後半になってからである可能性も出てくる。

第4発掘区で検出したSD103・104は、第2発掘区では検出できていない。これはさきのSD102の北に存在する可能性のある坪境小路北側溝に接続して途切れているのか、あるいはそれほど長くないものなのか不明である。SD103は、柱掘形との重複関係から条坊と関連するとは考え難く、SD104も柱位置との距離を考えるとその可能性は低いように思える。ここであえてSD104が築地の雨落ち溝であった可能性を考えて、昭和58年度の市HJ56次調査において得られた東三坊大路の西側溝心の値（X＝－148,038.0m、Y＝－16,990.5m）に照らしてみると、雨落ち溝心から東側溝心まで18尺（5.4m）とした場合、東側溝心がY＝－16,972.45mとなり、東三坊大路の幅員がちょうど6丈（18m）となる。東側溝と雨落ち溝との間は、東側溝の幅によるが、さきの58年度調査で検出した西側の築地塀とほぼ同じものが想定できる。あくまで可能性の域を出ず、今後の調査で確認すべき問題である。

今回、塔院の遺構として確実な判断を下せるものはなく、回廊等の痕跡も認められなかった。第1発掘区西端付近に認められる整地部分（平面図のアミ目部）は、厚さがそれぞれ約0.1mの硬くしまった整地上が3層からなり、塔基壇との関係把握が今後の課題となる。その上面に約0.05mの砂層を挟んで瓦を多く含む層が堆積している。この瓦集中堆積層には9世紀に属すると思われる瓦が含まれており、塔の創建時期または建て替えを考える重要な資料と考えられる。

第2発掘区の西端付近は西に向かって下っており、この付近にも瓦を多量に含む層が堆積している。やはり奈良時代後半から平安時代にかけての瓦が含まれ、第1発掘区西端の瓦堆積層と同時期とみられるが、塔自体に葺かれていたものかどうかは不明であり、なぜ塔院敷地の端にこれだけの瓦が堆積しているのかも現時点では不明である。

今回の調査は、あくまで残存遺構の状況・遺構面の確認等、今後の調査の資料を得ることを目的としたため、個々の遺構の全容についてはつかめていないものがほとんどである。そのなかで塔に先行する条坊の存在の可能性や、掘立柱建物の存在、整地土層のあり方等、今後の調査のための重要な手掛かりを得ることができた。（松浦五輪美）

2. 史跡大安寺旧境内（食堂并大衆院跡推定地）の調査　第93次

調査地は、史跡大安寺旧境内の北端部分、大安寺の伽藍復原においては、食堂并大衆院跡推定地北方に該当する。また、現存する杉山古墳の北西約40mに位置している。過去に周辺において発掘調査は行われておらず、旧境内地でも比較的調査例の少ないところである。

したがって、今回の調査では、奈良時代の遺構の確認を目的とし、また、旧境内地で遍有にみられる中・近世の遺構の有無を確認することを目的とした。

発掘区内の基本的な層序は、上から、表土、淡灰褐色土、明橙色粘質土、濁灰橙色砂質土と続き地表下約0.4mで明橙色砂質土の地山（無遺物層）に至る。地山上面の標高は概ね61.8mである。遺構の存する面は地山上面である。

検出した遺構には、室町時代の井戸・土坑、江戸時代の土坑がある。

SE01は、発掘区中央南で検出した瓦積の井戸。内法約0.8m、深さ約2.0m。掘形は約1.7mの平面円形。基底部に人頭大の礫を置き、その上に丸瓦・平瓦を60段以上積み上げて構築しているが、上から約0.5m分の瓦が抜き取られている。枠内から奈良時代の土師器、須恵器、丸瓦、平瓦、面戸瓦、磚、14世紀中頃の土師器、中世の丸瓦、平瓦、軒平瓦（3点）、時期不明の陶器（瀬戸）などが出土した。このことから、この井戸は14世紀中頃までには埋没したことがわかる。

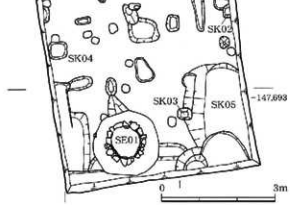
SK02は、発掘区中央東で検出した平面隅丸方形の土坑。東西0.2m以上、南北約0.4m、深さは約0.3mである。埋土から14世紀中頃の土師器、16世紀の土師器、瓦質土器などが出土した。

SK03は、SE01の東で検出した平面隅丸方形の土坑。東西約0.4m、南北約0.3m、深さ約0.3mである。埋土から15世紀後半の瓦質土器、16世紀の土師器、時期不明の瓦器が出土した。

SK04は、発掘区の中央西で検出した平面隅丸方形の土坑。東西約0.5m、南北約0.5m、深さ約0.3mである。埋土から16世紀と思われる土師器、時期不明の瓦質土器が出土した。

SK05は、発掘区中央東で検出した平面不整形の土坑。東西約1.5m以上、南北約2.5m以上、深さ約0.2mである。埋土から奈良時代の須恵器、丸瓦、平瓦、軒平瓦（6712型式A種が1点）、16世紀後半から17世紀前半にかけての土師器、瓦質土器、17世紀後半から18世紀初にかけての国産陶磁器が出土した。

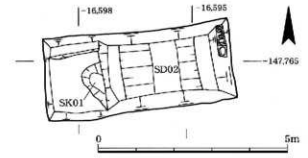
今回の調査では、中・近世の遺構を検出したが、奈良時代の遺構は検出できなかった。（山前智敬）



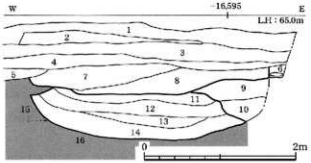
第93次調査　遺構平面図　1/100

第93次調査　発掘区　全景（東から）

3. 史跡大安寺旧境内（賤院跡推定地）の調査　第95次



第95次調査　遺構平面図　1/100



1　表土
2　茶褐色土
3　淡灰褐色土
4　褐色粘質土
5　暗灰色粘土
6　淡灰色砂
7　茶黄色粘質土（SD02C埋土）
8　灰色粘質土（SD02C埋土）
9　黄褐灰色粘土（SD02B埋土）
10　灰色砂（SD02B埋土）
11　暗灰色粘土（SD02A埋土）
12　淡灰色砂質土（SD02A埋土）
13　灰色粘質土（SD02A埋土）
14　黒灰色粘土（SD02A埋土）
15　茶色砂（地山）
16　青灰色砂礫（地山）

第95次調査　発掘区北壁土層図　1/50

第95次調査　発掘区　全景（北東から）

調査地は、大安寺の伽藍復原では、旧境内の北東隅、賤院跡推定地の北方にあたる。調査地東隣接地で行った市DA第39次調査（平成元年度）では、顕著な遺構はなかった。今回の調査では、奈良時代及び中・近世の遺構の確認を目的とした。

発掘区内の基本的な層序は、上から、表土、茶褐色土、濁灰褐色土、褐色粘質土、褐灰色粘土と続き、地表下約0.8mで茶色砂の地山（無遺物層）に至る。遺構の存する面は地山上面で、その標高は概ね64.1mである。

検出した遺構には、中世の土坑、溝、近世の溝がある。

SK01は、西半を後述するSD02により壊された土坑。東西0.5m以上、南北1.4m以上、深さ約0.2m。埋土から奈良時代の須恵器、15世紀の土師器、瓦質土器、時期不明の釘、鉄滓が出土した。

SD02は、発掘区のほぼ中央を南北に通る溝。長さ1.4m分を検出した。埋土の堆積状況から、3回以上の改修がある。溝を改修された順にA・B・Cとすると、Aは、幅2.5m以上、深さ約0.6m。埋土から奈良時代の土師器、須恵器、丸瓦、平瓦、軒平瓦（6702型式G種）、15世紀の土師器、瓦質土器、16世紀の土師器、瓦質土器、黒色漆器椀などが出土した。Bは、Aより東にずれる。幅1.0m以上、深さ0.5m以上。埋土から奈良時代の須恵器、16世紀の土師器、16世紀後半から17世紀初の土師器、陶器（志野）などが出土した。Cは、Bが埋没してから新たに掘られたもの。幅3.1m以上、深さ0.4m。埋土から奈良時代の須恵器、軒丸瓦（型式不明）、16世紀の土師器、17世紀中から後半の土師器、17世紀後半の磁器（染付）、時期不明の瓦質土器が出土した。出土遺物から考えると、Aは16世紀に、Bは16世紀後半から17世紀初に、Cは17世紀中から後半に埋没したものと思われる。

今回の調査では奈良時代の遺構は検出できなかった。溝SD02は、形状と位置関係からみて、市DA第85・86次調査（平成11年度）で検出した溝と同一であると思われる。　　（山前智敬）

Ⅳ　その他の調査

平成13年度は、平城京跡、平城京東市跡推定地、史跡大安寺旧境内のほかに、7遺跡7件の調査と、13件の試掘・確認調査、213件の工事立会を実施した。

7遺跡の内訳は、元興寺旧境内、奈良町遺跡、東紀寺遺跡、柚ノ川イモタ遺跡、水間遺跡、窪之庄北浦遺跡である。このうちの奈良町遺跡1件については、平成12年度概要報告書に報告済みである。柚ノ川イモタ遺跡、水間遺跡3件については、後日、別冊により報告する予定である。したがって、本報告書に掲載するのは、元興寺旧境内・奈良町遺跡、東紀寺遺跡、窪之庄北浦遺跡の3件である。

このうち、窪之庄北浦遺跡の調査地は、従来、遺物散布地（奈良県遺跡地図第1分冊8-B　74）として取り扱っていた範囲の東端にあたる。今回、顕著な遺構を検出したので、新たに遺跡名を付した。

窪之庄北浦遺跡（QK）第1次調査　第3発掘区全景（南西から）
本文121頁

1．東紀寺遺跡の調査　第5次

調査次数	HK　第5次	調査期間	平成14年1月15日～2月19日
事業名	東紀寺町3丁目707	調査面積	397㎡
届出者名	奈良市長	調査担当者	安井宣也
調査地	第9号（紀寺）市営住宅建替事業		

調査地は、能登川扇状地の扇央部で、古墳時代の集落遺跡である東紀寺遺跡の南東辺に位置する。旧状は水田で、京東条里の五条四里の一画にあたり、西辺付近で坪境が想定される。戦前には西隣接地が陸軍の練兵場であった。

調査地の西隣接地では、平成8・10年度に県営住宅建替に伴い奈良県立橿原考古学研究所が発掘調査を行っており、埋土中に古墳～奈良時代の遺物を含む旧能登川とみられる河川と古墳時代～中世の遺物包含層を確認している（県1996・1998年度）。

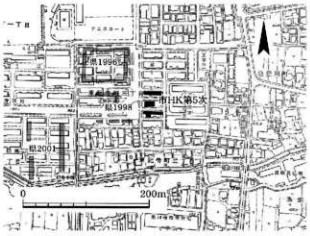
今回の調査は、遺跡南東辺の様相の把握を目的とし、3箇所の発掘区を設定して実施した。

北発掘区　層序は、旧建物に伴う造成土の下に水田に伴う耕土と盛土があり、その下で扇状地堆積層である地山の灰色シルト混砂礫（無遺物層）となる。発掘区西寄りでは水田盛土と地山との間にさらに古い水田の床土である灰色砂質シルト層（中・近世の土器片を含む）がある。

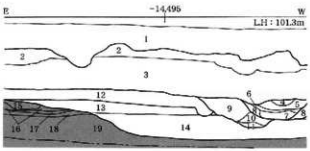
遺構の存する面は、地山上面（標高100.0～100.6m）で、西寄りで南北溝SD01を確認した。幅5m、深さ0.3mで、埋土は暗灰色砂質シルトである。

中央発掘区　層序は、旧建物に伴う造成土の下に水田の耕土（近世土器片を含む）があり、その下が地山の灰黄色砂混じり粘土（無遺物層）となる。発掘区西寄りでは水田の耕土と地山との間に古墳～奈良時代の遺物包含層がある。発掘区西辺では水田の耕土上面から約1mの切土がなされ、西落ちの段差が形成されている。

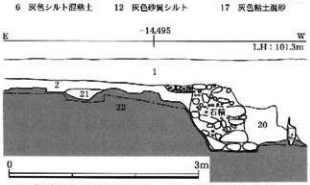
遺構の存する面は、地山上面（標高100.5m）で、古墳時代後期の掘立柱建物1棟（SB02）、溝1条（SD03）、平安時代以降の溝1条（SD04）と、



HK第5次調査　発掘区位置図　1/6,000



1 造成盛土　2 水田耕土　3 黒灰色砂質粘土　4 灰色砂礫　5 青灰色砂質シルト　6 灰色シルト混粘土　7 灰色砂・シルト　8 灰色シルト混粘土　9 青灰色砂礫混シルト　10 灰色砂礫　11 灰色礫　12 灰色砂質シルト　13 暗灰色砂質シルト　14 暗灰色砂質シルト（13・14　SD01埋土）　15 灰色砂礫　16 灰色シルト混砂礫　17 灰色粘土混砂



18 黄灰色粘土・暗灰色粘土（互層）　19 灰色シルト質粘土　20 黒灰色砂質シルト　21 灰色砂質シルト（柱穴）　22 灰黄色砂混シルト（15～19・22　地山）

発掘区南壁土層図（上：北発掘区　下：中央発掘区）　1/60

北発掘区　全景（北西から）

中央発掘区　全景（北東から）

南発掘区　全景（北西から）

南発掘区　拡張部（東から）

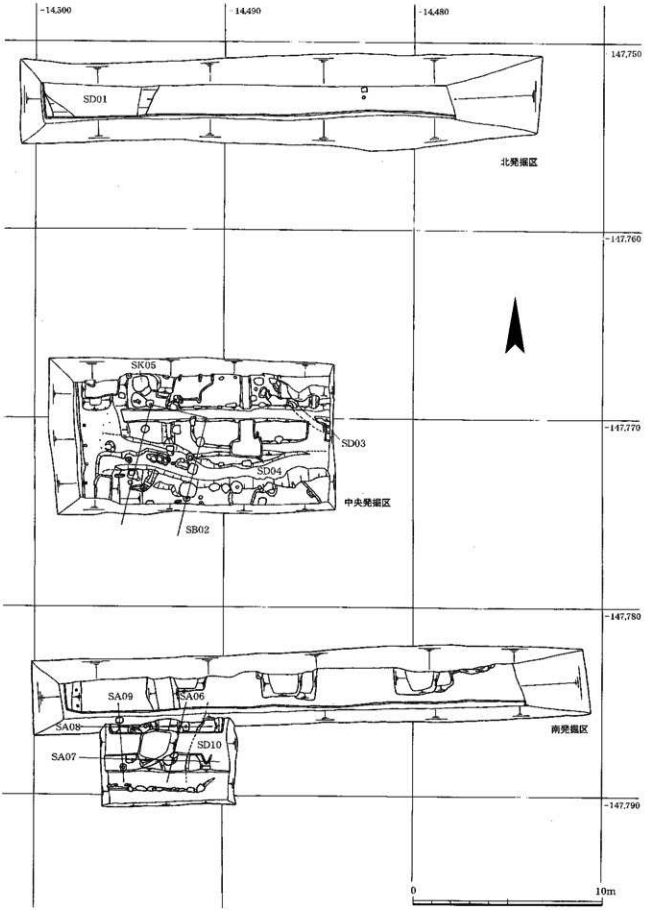
近代の土坑1基（SK05）を確認した。SB02は、梁間3間以上の南北棟建物とみられる。棟方向は、座標北に対しやや東に振れる。SD03は、幅0.4m、深さ0.2mの溝。埋土は褐灰色砂質シルトで、古墳時代後期の土器片が出土した。ＳＤ04は、幅1.5m、深さ0.3mの溝。埋土は灰色シルト・砂礫で、古墳・奈良時代の土器片が出土した。重複関係からSB02や柱穴より新しい。土坑SK05からは、近代の薬きょうが出土した。

南発掘区　層序は基本的に中央発掘区と同様で、発掘区西辺では切土により西落ちの段差が形成されている。

発掘区内の大半は旧建物の基礎工事等による掘削で地山が掘り下げられ、遺構は残っていなかったが、西寄りの南壁断面で地山の暗灰黄色砂混じり粘土層が一部残っており、その上面（標高100.3m）から掘削された遺構が観察できたため、この層が残る範囲について発掘区を拡張して調査を実施したところ、古墳・奈良時代の掘立柱列4条（SA06～09）と溝1条（SD10）を確認した。SA03～06は、建物や塀の一部の可能性がある。SD10は、深さ0.2mの南北溝で、西岸が残っていた。埋土は褐灰色砂質シルトで、古墳時代後期の土器片が出土した。

出土遺物　遺物整理箱2箱分の土器と瓦片1点、金属製品（近代の薬莢）2点がある。土器には、古墳時代後期の土師器杯・高杯・甕、須恵器蓋杯・甕・瓜、奈良時代の須恵器杯・蓋・甕、鎌倉～江戸時代の土師器皿、瓦器椀、陶・磁器椀等がある。薬莢は中央発掘区の土坑SK05から出土したもので、陸軍の38年式歩兵銃用のものらしい。

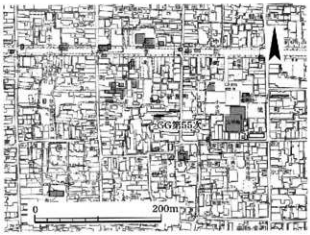
今回の調査の結果、調査地は古墳時代後期～奈良時代の集落の一画であることがわかった。西隣接地で確認された河川は、調査地の北側を流れていたようである。北発掘区で確認した溝SD01や中央及び南発掘区の西辺で確認した西落ちの段差は、その位置から条里の坪境の地割を反映していると思われる。　（安井宣也）



第5次調査　遺構平面図　1/200

2. 元興寺旧境内・奈良町遺跡の調査　第55次

調査次数	GG　第55次	**調査期間**	平成13年6月21日～6月28日
事業名	住宅建設	**調査面積**	22㎡
届出者名	個人	**調査担当者**	武田和哉
調査地	中新屋町12		



GG第55次調査　発掘区位置図　1/6,000

第55次調査　発掘区全景（東から）

調査地は、元興寺旧境内の伽藍復原では、講堂想定地の北西部分に該当している。東西12.4m、南北1.8mの発掘区を設定した。

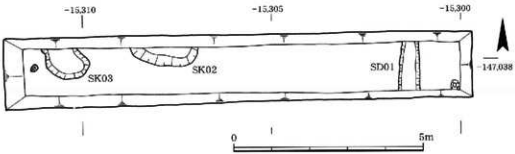
発掘区内の基本層序は、上から造成土(約0.1m)、暗茶灰色土(約0.2m)、黄褐色土(約0.3m)、暗灰褐色土（約0.4m)、淡灰褐色土（約0.2m)、茶褐色土（約0.1m）と続き、地表下約1.3mで茶灰色シルトもしくは茶灰色砂礫の地山に至る。地山上面の標高は約88.7mである。

検出した遺構は、溝1条、土坑2基があり、いずれも近世のものである。

SD01は、発掘区東側で検出した南北方向の溝である。幅約0.5m、深さ約0.1mで、北と南は、発掘区外へと続く。SK02は、発掘区西側のやや中央よりで検出した土坑である。北側は発掘区外へと続く。東西約1.8m、南北約0.5m分を検出した。深さは約0.2mである。SK03は、発掘区西端で検出した土坑である。北側は発掘区外へと続く。東西約1.2m、南北約0.8m分を検出した。深さは0.15mである。埋土からは、奈良時代の瓦と中世の瓦質土器や擂鉢等が出土した。

遺物は、遺物整理箱で約5箱分が出土した。中・近世の瓦や土器の破片が大半を占め、奈良時代の瓦片も若干含まれている。

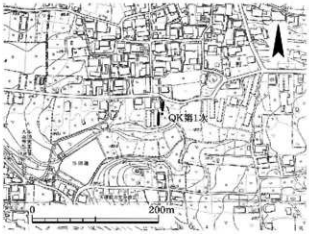
（武田和哉）



第55次調査　遺構平面図　1/100

3. 窪之庄北浦遺跡の調査　第1次

調査次数	QK　第1次	調査期間	平成14年2月25日～3月31日
事業名	仮称山村東西線道路新設工事	調査面積	63㎡
届出者名	奈良市長	調査担当者	中島和彦
調査地	山町749-1、750、窪之庄町629ほか		



QK第1次調査　発掘区位置図　1/6,000

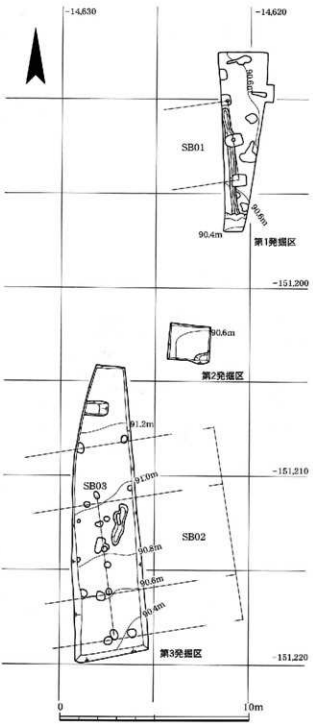
調査地は、笠置山地から盆地内にのびる丘陵上の端にあり、南側はすぐ谷である。遺物の散布はこの谷をはさみ、南北両側の丘陵に広がる。

尾根筋に直交して3箇所の発掘区を設定し、北から第1・2・3発掘区とした。

発掘区内の層序は、第1・2発掘区とも、厚さ0.1～0.2mの耕土直下で明橙色砂礫の地山（無遺物層、上面の標高約90.6m）となる。第3発掘区は、上から耕土、造成土、耕土（暗茶褐色土）で、地表下、北で約0.35m（標高約91.6m）、南で約0.9m（同約90.3m）で明橙色砂礫の地山（無遺物層）となる。地山上面は南に緩やかに傾斜する。

SB01は、東西棟掘立柱建物の東妻柱列と考えられる。SB02は、両面廂付東西棟掘立柱建物と考えられ、発掘区外東西に続く。SB03は、北面廂付東西棟掘立柱建物の妻柱列または塀と考えられる。いずれの建物も主軸は北で西に振れる。SB02からは奈良・平安時代の土師器皿が1点出土し、これらの建物は古代以降のものといえる。

出土遺物には、土師器、須恵器、灰釉陶器片が約40点、瓦が2点ある。　（中島和彦）



第1次調査　遺構平面図　1/200

4. 試掘調査・確認調査

平成13年度は、遺構の有無と遺構の状態を確認するために、奈良県教育委員会の指導のもと、13件の試掘調査及び確認調査を実施した。その結果を以下の表に示した。

調査次数は、実施した順序で付したものである。

遺跡の内訳は、平城京跡が7件、その他が5件で、遺跡に該当しなかったものが1件である。平城京跡については、遺跡名を省略し、条・坊・坪で示した。

これらのうち、良好な遺構が発見され、保存措置がとれない2件（調査次数：2001-03・-04次）については、届出者と協議し、本調査を実施した。2001-03次の本調査成果は、平城京跡463次調査として、本報告書に別に掲載したので参照されたい（84～85頁）。2001-04次の調査成果は、平成14年度の報告書に掲載する予定である。

試掘調査・確認調査一覧表

調査次数	遺跡名	調査地	調査日	調査面積	届出者／事業内容	届出受理番号
2001-01	左京六条一坊十四坪	柏木町421-1、422-1、-5	2001.04.12	30㎡	個人／店舗付事務所	H12、3327
	調査結果	計画建物の基礎は、地表から1.7m下の奈良時代の遺構面まで達しないことがわかった。				
2001-02	左京三条四坊三坪	大宮町3丁目5-11	2001.06.15	43㎡	国土交通省近畿地方建設局奈良国道事務所／事務所新築	H12、3297
	調査結果	建物予定地の2箇所に発掘区を設定して調査したが、いずれも中世以降の河川堆積で、奈良時代の遺構はなかった。				
2001-03	右京三条三坊十三坪	菅原町513-1番地	2001.07.03	30㎡	個人／共同住宅新築	H13、3004
	調査結果	鎌倉時代の溝、土坑を検出し、奈良時代の瓦が出土したため、同年度に本調査を実施した。（平城京第463次調査）				
2001-04	右京四条四坊一坪	宝来3丁目町180-1番地、ほか	2001.08.30	30㎡	個人／共同住宅新築	H13、3033
	調査結果	奈良時代の柱穴を検出したため、平成14年度に本調査を実施した。（平城京第483次調査）				
2001-05	古市遺跡	古市町529-4番地	2001.09.11	45㎡	社会福祉法人こぶしの会／社会福祉施設新築	H13、3104
	調査結果	室町時代の柱穴、溝を検出したため、基礎構造を変更し、遺構を保存した。				
2001-06	秋篠寺旧境内	秋篠町935，936番地、ほか	2001.10.04	21㎡	三和住宅株式会社／宅地造成	H10、3039
	調査結果	旧境内の北辺部分に発掘区を設定した。寺の関連遺構はなかったが、古墳時代前期の土坑1基を検出した。発掘区周辺の造成は盛土工事であったため、遺構は保存された。				
2001-07	右京五条四坊五坪	五条3丁目898番地、ほか	2001.10.18～.19	250㎡	ヤブウチ建設株式会社／宅地及資材置場造成	H13、3143
	調査結果	丘陵の南辺の一部で奈良時代の柱穴を検出したが、事業地の大部分は近世以降の畑地造成で削平されており、奈良時代の遺構はなかった。				
2001-08	南紀寺遺跡	古市町259-4番地	2001.11.15	81㎡	株式会社なかむら工房／宅地造成	H13、3190
	調査結果	奈良時代の溝を1条検出した。工事は遺構面まで及ばないことがわかった。				
2001-09	左京三条四坊三坪	法華寺町312、313番地、ほか	2001.11.12～.13	24㎡	オーエスハウジング株式会社／宅地造成	H12、3297
	調査結果	奈良時代の溝1条、石敷遺構、石列、柱穴を検出。緑釉軒瓦、緑釉平瓦が出土。工事は遺構の存する面まで達しない。				
2001-10	（遺跡に該当せず）	南京終町1丁目128番1、ほか29筆	2001.12.03～.05	129㎡	奈良交通株式会社／物品販売用店舗	H13、4003
	調査結果	遺跡有無確認踏査。建物予定地に6箇所の発掘区を設定し調査した。遺物は少量出土するが、明確な時期のわかる遺構は確認されなかった。なお、平成15年度に再度、試掘調査を実施した。				
2001-11	左京二条四坊四・五坪	芝辻町3丁目1-1、-2番地、ほか	2001.12.15	80㎡	株式会社ディスト／共同住宅	H13、3074
	調査結果	中世以降の佐保川の堆積層をによって削平されていた。				
2001-12	南紀寺遺跡	高畑町38-1番地	2002.03.25	81㎡	有限会社ダイヤハウス／宅地造成	H13、3216
	調査結果	時期不明の石垣を1条検出した。				
2001-13	元興寺旧境内	中院町14番地	2001.03.28	9㎡	個人／個人住宅増築	H13、3292
	調査結果	住宅の基礎は、近世の遺構面上面までしか達しないものであることがわかった。				

5. 工事立会

平成13年度に提出された埋蔵文化財発掘届出書・通知（文化財保護法57条2.3）は計324件、現状変更等許可申請書（文化財保護法80条）は75件、遺跡有無確認踏査願（県教育委員会通知）は8件である。提出された書類に基づいて、文化庁・奈良県教育委員会から奈良市教育委員会が土木工事に際して工事立会するように指示されたもののうち、平成13年度に実施したものは、下表の213件である。なお、平城京跡については、遺跡名を省略して、条・坊・坪、あるいは道路名で示した。

文化財保護法57条2・3の埋蔵文化財発掘届出書、通知に伴う工事立会

工事立会一覧表（1）

番号	日付	遺跡名	届出地	届出者	事業内容	届出受理番号	現況	立会結果
1	13.04.02	右京一条二坊六・十一坪	二条町2丁目54-13	個人	個人住宅新築	H12、3295	宅地	GL−1.11mまで掘削。盛土内
2	13.04.02	古市遺跡	古市町1544-1	古市小集落改良事務所	個人住宅新築	H12、3308	宅地	GL−1.1mまで掘削。盛土内。
3	13.04.02	左京六条二坊十六坪	大安寺3丁目108-1	個人	共同住宅新築	H12、3255	宅地	GL−0.55mで遺構面（地山）
4	13.04.04	左京一条三坊六坪	法華寺町1251	株式会社乾工務店・個人	宅地造成	H12、3268	水田	GL−0.4mで遺構面（地山）、遺構確認。
5	13.04.04	左京五条六坊十四坪 奈良町遺跡	瓦堂町10	個人	個人住宅新築	H12、3289	宅地	GL−0.5mまで掘削。盛土内。
6	13.04.04	左京三条四坊十五坪	大宮町5丁目134-5	個人	個人住宅新築	H12、3112	宅地	GL−0.65mまで掘削。地山確認。
7	13.04.06	右京二条三坊六坪	菅原町204	個人	個人住宅新築	H12、3144	宅地	GL−0.8mまで掘削。区画整理で発掘調査済。
8	13.04.11	右京五条大路	五条町3丁目836-2の一部	個人	個人住宅新築	H12、3054	宅地	GL−0.5mまで掘削。盛土内。
9	13.04.11	右京六条二坊九坪	六条町1丁目689-1の一部	個人	個人住宅新築	H12、3335	宅地	GL−1.25mまで掘削。地山確認。
10	13.04.12	左京二条五坊四坪	芝辻町3丁目68-8	個人	個人住宅新築	H12、3341	宅地	GL−0.25mまで掘削。盛土内
11	13.04.17	遺物散布地	左京4丁目5-5	三井不動産株式会社関西支社	分譲住宅建設	H12、3259	宅地	区画整理で造成済。
12	13.04.09～04.19	ヒシャゲ古墳隣接地 松林苑跡	佐紀町内	奈良市長	公共下水道築造工事	H12、3281	道路	GL−1m前後で地山確認。
13	13.04.20	左京二条五坊十六坪	法蓮町986-121	個人	個人住宅新築	H12、3337	宅地	GL−0.4mで地山確認。
14	13.04.20	右京四条一坊十二坪	南新町57-1	個人	駐車場、資材置場	H12、3324	水田	GL−0.3mまで掘削。
15	13.04.23	朱雀大路	南新町108-4	個人	駐車場造成	H13、3003	水田	GL−0.4mまで掘削。
16	13.04.23	左京四条五坊十三坪	三条宮前町311-1	個人	事務所建設	H12、3339	宅地	GL−1.1mまで掘削。区画整理で発掘調査済。
17	13.04.23	西三坊大路 西大寺旧境内	西大寺野神町2丁目1796-8	個人	個人住宅新築	H12、3318	宅地	掘削のないベタ基礎。
18	13.04.24	左京四条一坊一坪	四条大路3丁目951-1の一部	大将軍神社代表役員	神社の移転	H12、3344	その他	GL−0.45mまで掘削。盛土内
19	13.05.01	広大寺池遺跡	池田町407-6	個人	墓地造成	H13、3080	宅地	GL−1.1mまで掘削。地山確認。
20	13.05.07	右京三条条間路	宝来4丁目967-1	㈱ローソン	広告棟の設置	H12、3350	宅地	GL−1.1mまで掘削。地山確認。
21	13.05.07	左京二条二坊十四坪	法華寺町294-1	個人	畑地造成	H12、3342	水田	GL−0.2mで灰色砂質土検出、河川堆積か。
22	13.05.07	古市遺跡	古市町1641-1	個人	個人住宅新築	H12、3351	宅地	GL−0.5mまで掘削。旧表土確認。
23	13.05.09	右京西一坊大路	七条町1丁目165-1-3	個人	個人住宅新築	H13、3001	宅地	GL−0.5mまで掘削。盛土内。
24	13.05.09、06.11	左京二条四坊二条条間路	法蓮町256-14	個人	個人住宅新築	H13、3008	宅地	GL−0.8mまで掘削。耕土内。
25	13.05.10	左京八条三坊七坪	杏町546-1	個人	共同住宅新築	H12、3353	宅地	GL−1.35mで地山確認。
26	13.05.11	左京二条三坊十五坪	大宮町6丁目2-18	㈱田村総業	店舗建設	H12、3333	宅地	GL−0.6mまで掘削。盛土内
27	13.05.14	右京四条二坊九坪	尼ヶ辻中町176-1	個人	個人住宅新築	H12、3331	宅地	GL−0.3mまで掘削。盛土内
28	13.05.16	左京四条五坊十二坪 奈良町遺跡	杉ヶ町43-1	個人	個人住宅新築	H13、3006	宅地	GL−0.3mまで掘削。盛土内
29	13.05.21	左京七条四坊七十坪	東九条町1154-1	個人	駐車場造成	H13、3002	水田	0.7m盛土造成のみ。
30	13.05.21、05.28	紀寺跡、奈良町遺跡	紀寺町649の一部	個人	個人住宅新築	H12、3347	宅地	GL−1.6mまで掘削。地山確認。

工事立会一覧表 (2)

番号	日付	遺跡名	届出地	届出者	事業内容	届出受理番号	現況	立会結果
31	13.05.21	左京六条三坊十四坪	大安寺2丁目6-1	個　人	個人住宅新築	H12、3231	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土・耕土内。
32	13.05.21 ~05.25	興福寺旧境内 平城京跡、ほか	登大路町、ほか 循環道路各所	奈良市長	交通表示板の設置	H12、3288	道路	GL-1.35m前後まで掘削。
33	13.05.02	右京二条四坊十二坪	青野町149-1の一部	個　人	個人住宅新築	H13、3016	宅地	GL-1.05mまで掘削。盛土内。
34	13.05.03	右京二条二坊十二坪	西大寺国見町296-37	個　人	個人住宅新築	H12、3332	宅地	GL-0.2mまで掘削。盛土内。
35	13.05.03	右京一条北辺三坊七坪	秋篠早月町 209-25、215-3	個　人	個人住宅新築	H13、3031	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
36	13.06.04	左京三条七坊八坪 奈良町遺跡	後藤町17-1、18	個　人	個人住宅新築	H13、3059	宅地	GL-0.25mまで掘削。表土内。
37	13.06.05	七坊坊間路 奈良町遺跡	紀寺町635-1-2	個　人	個人住宅新築	H13、3046	宅地	GL-0.45mまで掘削。表土内。
38	13.06.06	左京九条二坊十坪	西九条町2丁目12-1	個　人	事務所住宅新築	H13、3025	宅地	GL-0.7mまで掘削。盛土内。
39	13.06.07	左京一条四坊十三坪	法蓮町646-1の一部	個　人	個人住宅新築	H13、3024	宅地	GL-0.2mまで掘削。盛土内。
40	13.06.12	新薬師寺旧境内	高畑町387-1の一部	個　人	個人住宅新築	H13、3007	宅地	GL-0.6mまで掘削。礫層を確認。
41	13.06.15	元興寺旧境内 奈良町遺跡	東寺林町12-2、他	個　人	個人住宅新築	H13、3349	宅地	GL-0.3mまで掘削。表土内。
42	13.06.15 、06.29	左京四条五坊十一坪 奈良町遺跡	杉ヶ町44-4	個　人	個人住宅新築	H12、3051	宅地	GL-0.65mまで掘削。地山と奈良時代の遺構面を確認。
43	13.06.18	右京西二坊大路	七条町1丁目409-1	個　人	個人住宅新築	H13、3026	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
44	13.06.18	右京二条三坊一・八坪	西大寺南町2123-1	(医) 北村皮膚科医院	個人医院新築	H13、3011	宅地	GL-1.8mまで掘削。河川堆積層を確認。
45	13.06.18	左京八条四坊六・十一坪	東九条町622-3	個　人	個人住宅新築	H13、3055	宅地	GL-0.15mまで掘削。耕土内。
46	13.06.19	左京二条七坊（二条大路） 奈良町遺跡	油留木町21、22-1、4	個　人	個人住宅新築	H13、3042	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
47	13.06.19	左京二条五坊十五坪 奈良町遺跡	法蓮町1055-2	(有) 紀の国住宅	分譲住宅新築	H13、3165	宅地	GL-0.25mまで掘削。盛土内。
48	13.06.19	左京六条三坊十一坪	大安寺2丁目66-1	個　人	屋根付ガレージ建設	H13、3007	青空駐車場	GL-0.4mまで掘削。盛土内。
49	13.06.19	左京五条六坊八坪	南新町24-1、-3	個　人	店舗新築	H13、3034	宅地	GL-0.9mまで掘削。近世包含層灰色粘土まで達する。
50	13.06.21	右京六条一坊一坪	六条町1丁目575-2	豊總工業（株）	分譲住宅新築	H13、3010	宅地	GL-0.8mまで掘削。耕土下の床土まで達する。
51	13.06.26	左京二条六坊一坪（東五坊大路）、奈良町遺跡	法蓮町991-3、ほか	個　人	個人住宅新築	H12、3352	宅地	工事先行。土層観察できず。
52	13.06.26	右京六条四坊一坪	六条町1丁目904-15	個　人	個人住宅新築	H13、3323	宅地	GL-0.3mまで掘削。地山まで達する。
53	13.06.27	右京四条二坊一・八坪	尼ヶ辻中町353-3	個　人	個人住宅新築	H13、3060	宅地	基礎掘削なし。GL-1mまで地盤改良。
54	13.06.27	古市城跡	古市町2236-5	個　人	個人住宅新築	H13、3066	宅地	GL-0.6mまで掘削。盛土内。
55	13.07.02	左京五条六坊十坪 奈良町遺跡	西木辻町305-24	個　人	個人住宅新築	H12、3363	宅地	GL-0.1mまで掘削。盛土内。
56	13.07.02	右京四条四坊 (西四坊大路)	宝来4丁目657-1	個　人	賃貸住宅新築	H13、3021	宅地	GL-0.5mまで掘削。地山と奈良時代の遺構面を確認。
57	13.07.05	緑ヶ丘遺物散布地	般若寺町347-2の一部	奈良市 水道事業管理者	事務所増築	H13、3030	その他	GL-0.7mまで掘削。地山面を確認
58	13.07.09	右京一条北辺三坊五坪	西大寺北町三丁目411-1、410-2の各一部	個　人	共同住宅新築	H13、3061	宅地	GL-0.4mまで掘削。耕土内。
59	13.07.10	右京三条二坊四坪	三条大路5丁目182-6	個　人	共同住宅新築	H13、3073	宅地	GL-0.1mまで掘削。盛土内。
60	13.07.10	左京六条二坊九坪	大安寺西1丁目288-23	個　人	個人住宅新築	H13、3049	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
61	13.07.11	奈良町遺跡	高畑町1381-1の一部、1381-5	個　人	個人住宅増築	H13、3077	宅地	GL-0.15mまで掘削。盛土内
62	13.07.11	左京一条七坊七坪 奈良町遺跡	手貝町8-1、9-1の各一部	個　人	個人住宅新築	H13、3050	宅地	GL-0.2mまで掘削。盛土内。
63	13.07.12	左京三条三坊七・十坪	大宮町6丁目7-6	(株) 垣内商会	飲食店新築	H13、3020	宅地	GL-1.3mまで掘削。盛土内。
64	13.07.12	左京二条四坊十三坪 (三条大路)	大宮町2丁目82-34、82-35	個　人	事務所改築	H13、3084	宅地	GL-1.5mまで掘削。撹乱されていた。
65	13.07.13	紀寺跡、奈良町遺跡	紀寺町668-6	個　人	個人住宅新築	H13、3054	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
66	13.07.17	古墳隣接地	高樋町847-2、-3、848、867	個　人	個人住宅新築	H13、3067	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
67	13.07.18	左京五条二坊八坪	大安寺町565-3、ほか	岡林工務店 田中測量事務	宅地造成	H13、3036	雑種地	GL-1mまで掘削。耕土内。
68	13.07.19	左京一条四坊十四坪	法蓮町645-4	個　人	個人住宅新築	H13、3085	宅地	GL-0.35mまで掘削。耕土下で時期不明の土坑検出。
69	13.07.23	興福寺旧境内 奈良町遺跡	大豆山突抜町7	個　人	共同住宅新築	H13、3068	宅地	GL-0.3mまで掘削。近世包含層確認。
70	13.07.23 、07.25	右京五条四坊七坪	平松町4丁目449-5、449-7	個　人	個人住宅新築	H13、3081	宅地	GL-0.15mまで掘削。盛土内。

工事立会一覧表 (3)

番号	日付	遺跡名	届出地	届出者	事業内容	届出受理番号	現況	立会結果
71	13.07.30 ~08.01	右京二条一坊十坪	二条大路南4丁目516-1	(株)ニシダ コーポレーション	店舗新築	H13、3039	宅地	GL-1.2mまで掘削。盛土内。
72	13.08.01	左京二条二坊七坪	法華寺町325-1	個人	個人住宅新築	H13、3064	宅地	GL-0.2mまで掘削。盛土内。
73	13.08.02	右京五条四坊二坪	平松四丁目343-12	個人	個人住宅新築	H13、3015	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
74	13.08.03	左京八条四坊十六坪 (八条大路)	東九条町247-4、5	個人	個人住宅増築	H13、3089	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
75	13.08.06	右京二条三坊一・八坪	西大寺南町2122-1、2123-1、2124	個人	個人住宅新築	H13、3083	宅地	GL-0.5mまで掘削。盛土内。
76	13.08.07	奈良町遺跡	高畑町1417の一部、1417-2、-4	個人	個人住宅新築	H13、3056	宅地	GL-0.4mまで掘削。盛土内。
77	13.08.08	左京四条四坊十坪	三条宮前町277-3	個人	個人住宅新築	H13、3086	宅地	GL-0.25mまで掘削。盛土内。
78	13.08.08	左京三条六坊五坪 (三条大路)	下三条町52-2	個人	個人住宅新築	H13、3035	宅地	GL-1.2mまで掘削。近世包含層確認。
79	13.08.08	右京二条三坊七坪	菅原町454-2、3の一部	個人	個人住宅新築	H13、3071	宅地	掘削日未連絡。土層観察できず。
80	13.08.13	菅原東遺跡 右京三条二坊三坪	西大寺駅南土地区画整理地区内66街区10区画	個人	店舗付アパート新築	H13、3101	宅地	GL-0.6mまで掘削。盛土内。
81	13.08.13	左京三条四坊八坪	芝辻町2丁目231-11、213-12	個人	個人住宅改築	H13、3094	宅地	工事先行。土層観察できず。
82	13.08.17	右京一条北大路	西大寺本町206-4	個人	事務所付マンション新築	H13、3029	宅地	GL-0.4mまで掘削。盛土内。
83	13.08.23	左京一条三坊六坪	法華寺町1252-2	(株)乾工務店	分譲住宅建設	H13、3096	雑種地	GL-0.2mまで掘削。盛土内。
84	13.08.20、08.23	コナベ古墳隣接地	法華寺町地内	奈良市水道事業管理者	配水支管布設工事	H13、3075	道路	GL-1.95mまで掘削。地山面を確認。
85	13.08.20 ~08.29	右京五条二坊二坪	五条町275	奈良市長	公園便所改修	H13、3088	公園	GL-0.8mまで掘削。盛土内。
86	13.08.27	右京二条二坊一坪	二条町3丁目90-70	個人	個人住宅新築	H13、3090	宅地	GL-0.4mまで掘削。盛土内。
87	13.08.28	右京四条一坊三坪	四条大路町4丁目114-1	(有)宋住建	分譲住宅建設	H13、3062	宅地	GL-0.8mまで掘削。盛土内。
88	13.08.24、08.29	左京五条四坊四坪	大安寺7丁目2-5	個人	個人住宅改築	H13、3092	宅地	GL-0.8mまで掘削。耕土下の層まで達する。
89	13.08.06 ~09.05	右京四条条間路、ほか	五条町地内	奈良市長	電線共同溝埋設工事	H12、3030	道路	GL-1.3mまで掘削。道路盛土内か耕土下層を確認。
90	13.09.11	秋篠寺旧境内隣接地	秋篠町622-3	個人	個人住宅改築	H13、3099	宅地	GL-0.2mまで掘削。地山確認。
91	13.09.11	右京五条二坊十一坪	五条町393-4、396	個人	個人住宅建設	H13、3102	畑地	GL-0.4mまで掘削。盛土内。
92	13.09.06 ~09.14	西大寺旧境内 (称徳陵兆域)	西大寺竜王町1丁目1544-2、1545	個人	個人住宅建設	H13、3072	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
93	13.09.17	右京四条三坊九坪	宝来2丁目122-2	個人	個人住宅建設	H13、3078	宅地	GL-1.05mまで掘削。0.5mで奈良時代の遺構面確認。
94	13.09.17	左京八条二坊四坪	杏町78-8	個人	個人住宅改築	H13、3041	宅地	GL-0.6 mまで掘削。盛土内。
95	13.09.18	薬師寺旧境内	西の京町194-1	個人	個人住宅改築	H13、3119	宅地	GL-0.4mまで掘削。盛土内。
96	13.09.03 ~09.18	秋篠寺旧境内	秋篠町地内	奈良市長	下水道布設工事	H13、3057	道路	GL-0.15mまで掘削。地山確認。
97	13.09.13	右京一条北辺四坊六坪	西大寺宝ヶ丘町796-11	個人	個人住宅新築	H13、3111	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
98	13.09.20	左京一条五坊十三坪	法蓮町1273-5	個人	個人住宅改築	H13、3103	宅地	GL-0.45mまで掘削。盛土内。
99	13.09.20	左京一条五坊四坪	法蓮町619-2、-4	個人	個人住宅改築	H13、3091	宅地	GL-0.6mの地山上面まで掘削。
100	13.09.21	古市城跡	古市町2185-21、-22	(株)吉本工務店	分譲住宅新築	H13、3130	宅地	GL-0.2mまで掘削。盛土内。
101	13.09.21	左京二条七坊十坪 奈良町遺跡	中御門町18	個人	個人住宅増築	H13、3121	宅地	GL-0.45mまで掘削。近世の包含層確認。
102	13.09.25	右京七条四坊六坪	七条西町1丁目627-156	個人	個人住宅建設	H13、3087	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
103	13.09.26、09.27	左京四条四坊八坪	三条添川町63-2	個人	個人住宅改築	H13、3070	宅地	GL-0.95mまで掘削。0.8mで地山確認。
104	13.09.28	左京七条四坊四坪	東九条町1014-123	奈良県ビルメンテナンス協同組合	事務所新築	H12、3080	宅地	GL-1.2mまで掘削。盛土内。
105	13.10.02	左京五条六坊十四坪 奈良町遺跡	東木辻町42	個人	宗教施設	H12、3264	宅地	GL-1.0mまで掘削。盛土内。
106	13.10.02	右京五条二坊十三坪	五条町551-2	個人	駐車場建設	H12、3123	水田	盛土のみ掘削なし。
107	13.10.03	左京四条二坊六・十一坪	恋の窪2丁目210-113	個人	個人住宅改築	H13、3117	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
108	13.10.10	古市城跡	古市町2352-46	個人	個人住宅新築	H13、3115	宅地	GL-0.3mまで掘削。盛土内。
109	13.10.11	右京三条二坊三坪	三条大路5丁目186-1	個人	個人住宅改築	H13、3113	宅地	GL-1.0mまで掘削。耕土確認。
110	13.10.15	右京六条四坊二坪	六条2丁目442-3、444-9	個人	個人住宅改築	H13、3134	宅地	GL-0.25mまで掘削。盛土内。

工事立会一覧表 (4)

	日付	遺跡名	届出地	届出者	事業内容	届出受理番号	現況	立会結果
111	13.10.15	左京六条二坊十三坪	大安寺2丁目21-3-6-7	個 人	事務所倉庫建設	H13、3167	宅地	GL−1.1mまで掘削。遺物包含層確認。
112	13.10.16	左京二条三坊六坪	法華寺町190-1、-14、-15、ほか	個 人	貸事務所建設	H13、3098	宅地	GL−1.3mまで掘削。盛土内。
113	13.10.16	左京二条七坊十四・十五坪 奈良町遺跡	川久保町23-4	個 人	個人住宅新築	H13、3106	宅地	GL−0.5mまで掘削。河川堆積確認。
114	13.10.19	右京二条四坊四坪	菅原町376-10、377-6、-7	個 人	賃貸住宅建設	H13、3147	宅地	基礎掘削なし。
115	13.10.20	左京六条二坊一・二坪	八条町376-1、ほか	(有)和良	店舗建設	H12、3113	宅地	水田面より−1.2mまで掘削。0.4m下で奈良時代の遺構面確認。
116	13.10.23	左京三条六坊十坪 奈良町遺跡	大豆山町3	個 人	共同住宅新築	H12、3108	宅地	GL−1.2mまで掘削。掘削床で地山確認。
117	13.10.23	左京 東四坊大路	東九条町748-1、774-1、776-2	(株)近畿環境衛生センター	事務所建設	H12、3139	宅地	GL−1.25mまで掘削。盛土内。
118	13.10.22、10.23	古市遺跡	古市町529-4	社会福祉法人こぶしの会	社会福祉施設建設	H12、3104	宅地	2001-04次調査の設計変更確認工事立会
119	13.10.24	左京四条二坊二坪	四条大路1丁目5-73	個 人	個人住宅新築	H12、3172	宅地	GL−0.2mまで掘削。盛土内。
120	13.10.26	遺物散布地	左京4丁目	大和ハウス工業(株)	宅地造成	H13、3079	雑種地	擁壁工事立会。ほとんどが盛土であったが、部分的に地山確認。
121	13.10.29	右京二条四坊七坪	菅野町165-1、196-3	個 人	個人住宅新築	H13、3162	宅地	GL−0.16mまで掘削。地山確認。
122	13.10.30	朱雀大路	柏木町290番3	個 人	個人住宅新築	H13、3135	宅地	GL−0.9mまで掘削。地山確認。
123	13.10.30	新薬師寺旧境内 奈良町遺跡	高畑町579	個 人	個人住宅新築	H13、3169	宅地	GL−0.7mまで掘削。近代包含層確認。
124	13.10.30	正暦寺旧境内	菩提仙町138-2	関西電力(株)	電柱設置工事	H13、3196	山林	GL−2.6mまで掘削。岩盤確認。
125	13.11.01	左京二条五坊二坪	法蓮町250-8	個 人	個人住宅新築	H13、3128	宅地	GL−0.2mまで掘削。盛土内。
126	13.11.04	左京二条四坊十坪	法蓮町227-9	個 人	個人住宅新築	H13、3166	宅地	GL−0.35mまで掘削。耕土確認。
127	13.11.06、12.03	五社神古墳（神功皇后陵）隣接地	山陵町522-1、-4	個 人	個人住宅新築	H13、3158	宅地	盛土工事を確認。基礎はこの盛土内。
128	13.11.08	左京四条一坊十五坪	四条大路2丁目874-8	個 人	個人住宅新築	H12、3156	宅地	GL−0.6mまで掘削。盛土内。
129	13.11.09	左京九条四坊十坪	東九条町263-4	個 人	個人住宅新築	H12、3174	宅地	GL−0.3mまで掘削。盛土内。
130	13.11.09	新薬師寺旧境内 奈良町遺跡	高畑町351-5	個 人	個人住宅新築	H13、3145	宅地	GL−1.5mまで掘削。地山確認。
131	13.11.13	右京 三条大路 西二坊坊間路	宝来3丁目14-14、	個 人	個人住宅新築	H13、3171	宅地	GL−0.1mまで掘削。盛土内。
132	13.11.19	右京二条三坊七坪	西大寺駅南土地区画整理地区内18街区3・4区画	個 人	個人住宅新築	H13、3168	宅地	GL−0.7mまで掘削。盛土内。
133	13.11.19	古市城跡	古市町2352-25	個 人	個人住宅新築	H13、3161	宅地	GL−0.4mまで掘削。地山確認。
134	13.11.22	右京三条二坊十二坪	尼ヶ辻中町281-1、-2、236の一部	個 人	個人住宅改築	H13、3170	宅地	GL−0.5mまで掘削。盛土内。
135	13.11.22	右京三条三坊十三坪	宝来2丁目784-1	個 人	個人住宅改築、駐車場	H13、3164	宅地	GL−0.2mまで掘削。盛土内。
136	13.11.24	左京四条三坊六・七坪	三条栄町177-1	個 人	個人住宅新築	H12、3203	宅地	GL−0.3mまで掘削。盛土内。
137	13.11.26	菅原東遺跡 右京二条三坊七坪	菅原町48、49-2の一部	福祉法人寧楽ゆいの会	授産施設建設	H13、3192	宅地	工事先行。区画整理事業で調査済。
138	13.11.27	右京七条三坊十坪	七条1丁目427	個 人	個人住宅増築	H13、3175	宅地	GL−0.2mまで掘削。盛土内。
139	13.11.27	左京三条四坊一坪	芝辻町2丁目10-15	個 人	店舗付個人住宅新築	H13、3137	宅地	GL−2.2mまで掘削。2m下で奈良時代の遺構面確認
140	13.11.28	右京一条二坊三・四坪	二条町2丁目72-9	個 人	個人住宅新築	H13、3206	宅地	GL−0.5mまで掘削。盛土内。
141	13.11.29	左京六条三坊十六坪	大安寺3丁目111-4	個 人	個人住宅新築	H13、3183	宅地	GL−0.5mまで掘削。遺物包含層確認。
142	13.11.28	遺物散布地	水間町地内	奈良市水道事業管理者	水道管布設工事	H13、3208	道路	GL−0.5mまで掘削。地山面を確認。
143	13.11.30	右京 西二坊大路	尼辻町214	個 人	資材置場造成	H13、3191	池	GL−0.3mまで掘削。遺物包含層確認。
144	13.11.30	右京三条四坊十四坪	宝来町699-1	(有)日昌	店舗事務所新築	H13、3181	宅地	GL−0.8mまで掘削。地山確認。
145	13.11.30	右京二条二坊一坪	二条町3丁目90-9	個 人	個人住宅新築	H13、3197	宅地	工事先行。
146	13.12.03	菅原東遺跡 右京三条三坊三坪	西大寺駅南土地区画整理地区内66街区8区画の一部	個 人	店舗新築	H13、3149	宅地	GL−1mまで掘削。盛土内。
147	13.12.03	佐保山東陵隣接地、平城京跡、奈良町遺跡、多聞城跡	川上町564-15	個 人	個人住宅新築	H12、3200	宅地	GL−0.15mまで掘削。盛土内。
148	13.12.05	左京九条二坊十五坪	西九条町2丁目10-5の一部	個 人	個人住宅改築	H13、3142	宅地	GL−0.6mまで掘削。耕土確認。
149	13.12.07	左京四条六坊七坪 奈良町遺跡	小川町15	個 人	店舗事務所新築	H12、3204	宅地	GL−0.95mまで掘削。地山確認。
150	13.12.08	右京一条北辺四坊一坪	西大寺赤田町1丁目669-2、ほか	個 人	共同住宅新築	H13、3122	宅地	GL−1.8mまで掘削。地山面確認。

工事立会一覧表 (5)

番号	日付	遺跡名	届出地	届出者	事業内容	届出受理番号	現況	立会結果
151	13.12.08	左京四条六坊二・七坪 奈良町遺跡	奥子守町6の一部	個　人	共同住宅新築	H12、3177	宅地	工事先行。GL−0.3mまで掘削。表土内。
152	13.12.11	右京四条三坊八坪	尼辻西町212-1	個　人	店舗新築	H13、3165	宅地	GL−1mまで掘削。地山面まで達していない。
153	13.12.13	左京二条四坊十坪	法蓮町227-10	興和不動産	住宅新築	H13、3214	宅地	GL−0.3mまで掘削。地山面まで達していない。
154	13.12.14	右京四条一坊十坪	四条大路3丁目968-1、974-1	個　人	デイサービスセンター新築	H13、3163	宅地	GL−0.5mまで掘削。地山面確認。
155	13.12.17	ヒシャゲ古墳隣接地	法華寺町地内	奈良市水道事業管理者	配水支管改良工事	H13、3218	道路	GL−3mまで掘削。掘削は既存掘形内に収まっている。
156	13.12.19	右京　西四坊大路	西大寺新池町1726-1	個　人	共同住宅新築 資材置場造成	H13、3209	宅地	GL−0.6mまで掘削。盛土内。
157	13.12.19	左京六条一坊十坪	柏木町486-5	㈱渡辺写真館	店舗新築	H13、3180	宅地	GL−1.2mまで掘削。盛土内。
158	13.12.19	左京二条四坊十坪	法蓮町227-10	興和不動産	住宅新築	H13、3219	宅地	GL−0.25mまで掘削。盛土内。
159	13.12.20	左京二条四坊十坪	法蓮町227-2の一部	興和不動産	住宅新築	H13、3220	宅地	GL−0.25mまで掘削。盛土内。
160	13.12.21	左京二条四坊十三坪	芝辻町3丁目94-5	個　人	個人住宅新築	H13、3157	宅地	盛土工事を確認。基礎はこの盛土内。
161	13.12.25	左京四条一坊十一坪	四条大路2丁目37-11	個　人	個人住宅新築	H13、3195	宅地	GL−0.4mまで掘削。盛土内。
162	13.12.25	左京二条七坊十一坪 奈良町遺跡	北半田中町7	個　人	個人住宅新築	H12、3189	宅地	GL−0.3mまで掘削。表土内。
163	14.01.08	右京六条三坊五坪	六条1丁目739-9、-12、-13	㈱吉本工務店	分譲住宅新築	H13、3240	宅地	GL−0.05mまで掘削。盛土内。
164	14.01.08	右京六条三坊五坪	六条1丁目739-7、-8、-10、-11	㈱吉本工務店	分譲住宅新築	H13、3241	宅地	GL−0.05mまで掘削。盛土内。
165	14.01.08	左京三条三坊十坪	芝辻町4丁目11-16、-17	個　人	個人住宅新築	H13、3222	宅地	GL−1mまで掘削。盛土内。
166	14.01.15	遺物散布地	藤原町258-1、-2	個　人	農業用倉庫新築	H12、3213	水田	GL−0.2mまで掘削。盛土内。
167	14.01.08	佐紀石塚山古墳隣接地	山陵町181	個　人	個人住宅新築	H13、3124	宅地	GL−0.5mまで掘削。盛土内。
168	14.01.17	左京三条五坊一坪 奈良町遺跡	奥芝町7-4	個　人	個人住宅新築	H12、3238	宅地	GL−0.3mまで掘削。盛土内。
169	14.01.18	東九条平城跡	東九条町220-22	個　人	個人住宅新築	H12、3227	宅地	GL−0.3mまで掘削。盛土内。
170	14.01.23	海龍王寺旧境内	法華寺町897	海龍王寺	貯水槽改良工事	H13、3246	駐車場	GL−0.4mまで掘削。盛土内。
171	14.01.16、22、23	阪原角田遺跡	阪原町地内	奈良市水道事業管理者	配水管布設工事	H13、3199	道路(橋)	GL−1.7mまで掘削。
172	14.01.28	右京一条北辺四坊一坪	西大寺北町3丁目402-5	個　人	個人住宅新築	H13、3205	宅地	GL−0.5mまで掘削。地山面確認。
173	14.01.31	左京九条三坊八坪	西九条町2丁目2-31	個　人	個人住宅新築	H12、3239	宅地	GL−0.45mまで掘削。盛土内。
174	14.01.31	菅原東遺跡 右京三条三坊二坪	西大寺駅南土地区画整理事業地区内60街区1、2、ほか	個　人	事務所新築	H13、3236	宅地	GL−1.3mまで掘削。盛土内。
175	14.02.07	右京三条三坊十二坪	宝来2丁目810-9、-30	個　人	個人住宅新築	H13、3247	宅地	GL−0.3mまで掘削。盛土内。
176	14.02.08	元興寺旧境内 奈良町遺跡	高畑町113-1	個　人	個人住宅新築	H13、3188	宅地	GL−0.5mまで掘削。谷地形を確認
177	14.02.08	奈良町遺跡	紀寺町390-3の一部	個　人	個人住宅新築	H13、3211	宅地	基礎掘削なし。
178	14.02.13	右京五条一坊十坪	五条233-3、-4	個　人	個人住宅新築	H13、3226	宅地	GL−0.05mまで掘削。地山確認。
179	14.02.18	朱雀大路	柏木町290-52、	個　人	個人住宅新築	H13、3224	宅地	GL−0.3mまで掘削。盛土内。
180	14.02.14、02.19	右京七条三坊十一坪	七条1丁目732-8、-12	個　人	個人住宅新築	H13、3257	宅地	GL−1mまで掘削。地山確認。
181	14.02.20	左京三条一坊六坪	三条大路3丁目476-1、480-1	㈱ヨネザワ	店舗新築	H13、3275	宅地	基礎掘削なし。
182	14.02.20	奈良町遺跡	高畑町639-3	個　人	個人住宅新築	H13、3261	宅地	GL−0.5mまで掘削。地山面確認。
183	14.02.22	右京二条三坊一坪	西大寺駅南土地区画整理地区内（菅原町2129、2130）	奈良市長	区画整理事業	S63、3057	宅地	調整池の工事で14世紀の遺物が出土したため立会調査。
184	14.02.25	左京二条五坊八坪（二条大路）	芝辻町1丁目9-9	個　人	個人住宅新築	H13、3259	宅地	GL−0.3mまで掘削。盛土内
185	14.02.26	右京四条三坊十六坪（三条大路）	宝来2丁目795-1	個　人	賃貸住宅改築	H13、3233	宅地	GL−0.8mまで掘削。盛土内。
186	14.02.27	右京七条二坊十五坪	六条町410、411-1の一部	奈良市長	乗務員休憩所新築	H13、3207	宅地	GL−0.6mまで掘削。遺物包含層内
187	14.02.22、02.28	左京五条三坊七坪	恋の窪町2丁目210-54	個　人	個人住宅新築	H13、3255	宅地	GL−0.3mまで掘削。盛土内。
188	14.03.06	左京三条六坊十二坪 奈良町遺跡	上三条町31番地	個　人	個人住宅新築	H12、3105	宅地	GL−0.9mまで掘削。地山確認。
189	14.03.07、03.08	右京一条北辺二坊五坪	秋篠新町265の一部	個　人	個人住宅新築	H13、3281	宅地	GL−0.4mまで掘削。地山面確認。
190	14.03.11	奈良町遺跡	高畑町1198の6	個　人	個人住宅新築	H13、3210	宅地	南斜面をGL−4mまで掘削。地山面確認。

工事立会一覧表（6）

番号	日付	遺跡名	届出地	届出者	事業内容	届出受理番号	現況	立会結果
191	14.03.11	佐紀石塚山古墳隣接地	山陵町198	個　人	個人住宅新築	H13、3234	宅地	GL−0.3mまで掘削。地山面らしき層を確認。
192	14.03.11	南 紀 寺遺 跡	高畑町59-1、58-1の一部、57-1の一部	個　人	賃貸住宅新築 駐車場造成	H13、3237	宅地	GL−2mまで掘削。地山面確認。
193	14.03.13	奈 良 町 遺 跡	高畑町1426、1432-2	個　人	個人住宅新築	H13、3252	宅地	GL−1mまで掘削。室町時代の包含層と地山面確認。
194	14.03.15	ヒシャゲ古墳隣接地	佐紀町1214-29	個　人	個人住宅新築	H13、3253	宅地	GL−0.2mまで掘削。盛土内。
195	14.03.18	遺物敬布地・墳 墓	五条畑町2丁目1141-7、5095-23、ほか	オオクニ商事㈱	分譲住宅新築	H12、3263	宅地	工事先行され、表土が除去されていた。遺構遺物はなかった。
196	14.03.11 〜03.18	左京三条五坊八・九・十坪（二条大路）、奈良町遺跡	芝辻町1丁目11-76	奈良市長	都市計画道路擁壁工事	H13、3258	宅地	GL−0.4mまで掘削。南斜面で2条の溝を検出。南北小路の両側溝か。
197	14.02.19 、03.19	多 開 城 跡	法蓮町平成畑1514 35	個　人	個人住宅新築	H12、3249	宅地	GL−0.4mまで掘削。盛土内。なお、工事中に古墳時などの古墳物を出土
198	14.03.19 、03.20	左京九条一坊九坪	西九条町3丁目12-4	ヤマハオートセンター㈱	広告塔の設置	H12、3289	宅地	GL−2.7mまで掘削。
199	14.03.22	右京二条三坊三・四坪	西大寺駅南1地区面整理地区内27街区1〜7	栄泉不動産㈱	共同住宅新築	H13、3144	宅地	区画整理で造成済。GL 2.5mまで掘削。地山面確認。
200	14.03.22	喜光寺旧境内	菅原西町517	個　人	個人住宅新築	H13、3208	宅地	GL−0.75mまで掘削。地山面と近世土坑を2基確認
201	14.03.25	紀寺跡、奈良町遺跡	紀寺町965-2	個　人	個人住宅新築	H13、3223	宅地	GL−0.4mまで掘削。地山面確認。
202	14.03.28 、04.02	元興寺旧境内 奈 良 町 遺 跡	今御門町6-1	個　人	個人住宅新築	H13、3243	宅地	GL−0.6mまで掘削。盛土内。

文化財保護法第80条の現状変更等許可申請書に伴う工事立会

工事立会一覧表（7）

番号	日付	遺跡名	届出地	届出者	事業内容	届出受理番号	現況	立会結果
203	13.04.23	史跡平城京朱雀大路跡	二条大路南3丁目	通都祭実行委員会	仮設テント設置	H12、1073	その他	史跡には影響がない
204	13.05.07	史跡興福寺旧境内	登大路町48番地	新能保存会	仮設テント、舞台の設置	H13、1002	その他	史跡には影響がない
205	13.05.21 〜05.25	史跡興福寺旧境内 名勝奈良公園	登大路町63、78、48の先、（大理街道沿い）	奈良市長	交通表示板の設置	H13、1049	道路	GL−1.35m前後まで掘削。
206	13.05.28	史跡大安寺旧境内	東九条町1415 1	個　人	離れ新築	H13、1066	宅地	前回の申請で調査済。
207	13.06.08	史跡大安寺旧境内	大安寺1丁目7-1	奈良市長	大安寺幼稚園プール工事	H13、1058	宅地	GL−0.6 mまで掘削。耕土内。
208	13.06.12	史跡大安寺旧境内	大安寺1丁目10-27	個　人	農業用自動車収納庫	H13、1066	宅地	GL−0.6 mまで掘削。耕土内。
209	13.07.30	史跡春日大社境内	春日野町字野寺160	奈良市水道事業管理者	水道管改良工事	H13、1067	駐車場	GL−1.8mまで掘削。地山確認。
210	13.10.23	史跡大安寺旧境内	大安寺4丁目地内	関西電力株式会社	電柱設置工事	H13、1010	道路	GL−0.9 mまで掘削。地山確認。
211	14.01.15 〜02.14	史跡興福寺旧境内	高畑町1122-8〜1165-1先里道	奈良市長	歩道改修工事	H13、1018	道路	GL−0.6mまで掘削。盛土内におさまるが一部で地山確認
212	14.03.14	史跡東大寺境内（転害門）	雑司町142-1	奈良市長	鶴光室内板設置	H13、1055	宅地	GL−0.7mまで掘削。近世包含層内
213	14.03.18	史跡大安寺旧境内	大安寺4丁目5-17	個　人	門、車庫の新築	H13、1053	宅地	GL−0.5mまで掘削。地山面確認。

V 自然科学分析

奈良市教育委員会では、発掘調査に関わって、調査成果をより総合性の高い確実なものとするために、遺跡や遺物の肉眼観察では把握できない事象について自然科学分析を活用している。

これまでに行ってきた自然科学分析は、下記の3点である。

1. 環境の指標性が高く、生活資源となっている植物を主体とした生物遺体の同定
2. 年代の手がかりとなる遺物がみられない地層や遺構の年代を比定するために行う、有機物を試料として年代値を得る放射性炭素年代測定や、年代の指標性が高い広域火山灰の同定
3. 遺物の付着物や土壌中に含まれる化学物質、あるいは土器の胎土に含まれる鉱物を同定する理化学分析

平成13年度は、平城京跡の調査のうち、JR奈良駅南地区土地区画整理事業に係る発掘調査（HJ459-2、-3次調査）で、樹種同定、放射性炭素年代測定（AMS）を、油坂遺跡（IIJ第461次調査）で、花粉・珪藻分析、種実同定、放射性炭素年代測定（β線）を、柚ノ川イモタ遺跡（SI第2次調査）で、樹種同定、花粉・寄生虫卵分析、放射性炭素年代測定（β線）を実施した。

このうち、本書には、油坂遺跡（IIJ第461次調査）の、花粉・珪藻分析、種実同定、放射性炭素年代測定を掲載する。なお、平成14年度にこの隣接地で実施したHJ第479次調査で、放射性炭素年代測定（β線）を実施しており、あわせて報告する。

1. 油坂遺跡（平城京第461・479次調査）採取試料の自然科学分析

I．花粉分析（第461次）

1. はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象として比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。なお、乾燥的な環境下の堆積物では、花粉などの植物遺体が分解されて残存していない場合もある。

2. 試料

試料は、油坂遺跡の発掘区北壁の43層（試料A）および51層（試料B）より採取された堆積物2点である。43層は暗灰色シルトで縄文土器包含層、51層は青灰色シルトである。

3. 方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にして、試料に以下の物理化学処理を施して行った。

1）5%水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。
2）水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。
3）25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。
4）水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。
5）再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。
6）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、遠心分離（1500rpm、2分間）の後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉（1973）および中村（1980）をアトラスとして、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。イネ属に関しては、中村（1974、1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類しているが、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

4. 結果

(1) 分類群

試料1cm³中の花粉数は、試料Aで約18万個、試料Bでは約24万個であり花粉密度は非常に高い。また、花粉の保存状態も良好であった。出現した分類群は、樹木花粉25、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉11、シダ植物胞子2形態の計41である。これらの学名と和名および粒数を表に示し、花粉数が200個以上計数できた試料は花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを図に示した。なお、主要な分類群は写真に示した。

以下に出現した分類群を記す。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、アカメガシワ、モチノキ属、ツバキ属、グミ属、エゴノキ属、モクセイ科、ツツジ科、ニワトコ属－ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、マメ科、ウコギ科

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、イネ科、カヤツリグサ科、タデ属サナエタデ節、アカザ科－ヒユ科、ノブドウ、アリノトウグサ属－フサモ属、シソ科、タンポポ亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

(2) 花粉群集の特徴

1) 試料B

樹木花粉の占める割合が非常に高く、特にコナラ属アカガシ亜属が優占する。次にシイ属の出現率が高く、スギ、コナラ属コナラ亜属、クリなどが低率ながら出現する。草本花粉の出現率は低く、イネ科、カヤツリグサ科、ノブドウ、シソ科、ヨモギ属が出現する。

2) 試料A

樹木花粉の占める割合が非常に高く、コナラ属アカガシ亜属が優占する。次いでシイ属の出現率が高く、スギ、コナラ属コナラ亜属、クリなどが低率に出現する。草本花粉はイネ属型を含むイネ科がやや多い。他にガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、カヤツリグサ科、アリノトウグサ属－フサモ属、クワ科－イラクサ科、マメ科、ウコギ科、アカザ科－ヒユ科、タンポポ亜科、ヨモギ属などが低率に出現する。

5. 花粉分析から推定される植生と環境

1) 試料B

樹木花粉の占める割合が非常に高く、周囲は森林の状態であったと推定される。森林植生としては、コナラ属アカガシ亜属（カシ類）を主にシイ属（シイ類）、スギおよびコナラ属コナラ亜属（ナラ類）などを主要構成種とする照葉樹林が分布していたと考えられる。堆積地周辺は森林の切れ目などにイネ科、カヤツリグサ科、ノブドウ、シソ科、ヨモギ属の草本がわずかに生育していたと推定される。

2) 試料A

下位の51層とは森林の植生に大きな変化はみられず、コナラ属アカガシ亜属（カシ類）、シイ属（シイ類）を主とする照葉樹林が引き続き分布していたと考えられる。堆積地周辺は、イネ科、カヤツリグサ科などの湿生植物、ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、アリノトウグサ属－フサモ属などの抽水植物の花粉が検出されることから、これらの草本が生育する湿地の環境が示唆される。また、クワ科－イラクサ科、マメ科、ウコギ科、アカザ科－ヒユ科、タンポポ亜科、ヨモギ属などの草本も検出され、森林の切れ目などに生育していたと推定される。

6. まとめ

池坂遺跡の発掘区北壁の43層（試料A）、51層（試料B）より採取された堆積物について花粉分析を行った。その結果、51層および43層の時期は、コナラ属アカガシ亜属（カシ類）、シイ属（シイ類）を主とする照葉樹林が分布しており、草本は少ない環境であったことが推察された。

（株式会社　古環境研究所）

参考文献

中村純（1973）『花粉分析』古今書院，p.82-110.

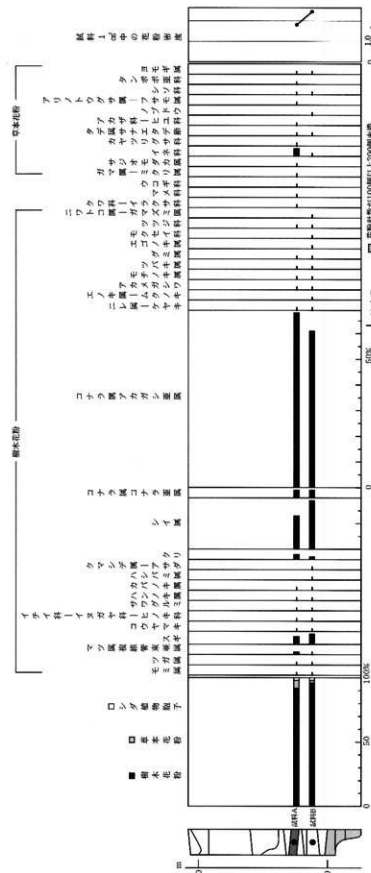
金原正明（1993）「花粉分析法による古環境復原」『新版古代の日本』第10巻　古代資料研究の方法，角川書店，p.248-262.

島倉巳三郎（1973）「日本産物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第5集，p60.

中村純（1980）「日本産花粉の標徴」『大阪自然史博物館収蔵目録』第13集，p91.

中村純（1974）「イネ科花粉について，とくにイネ（Oryza sativa）を中心として」『第四紀研究』13，p.187-193.

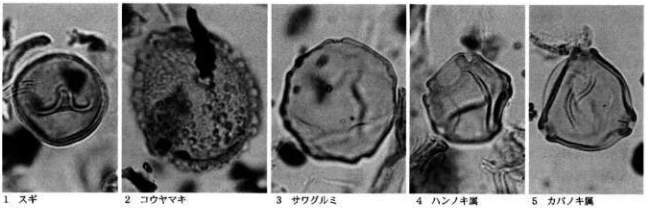
中村純（1977）「稲作とイネ花粉」『考古学と自然科学』第10号，p.21-30.



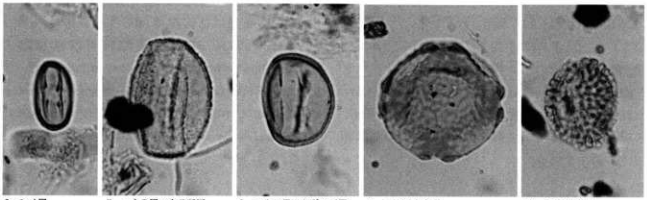
花粉ダイアグラム

花粉分析結果

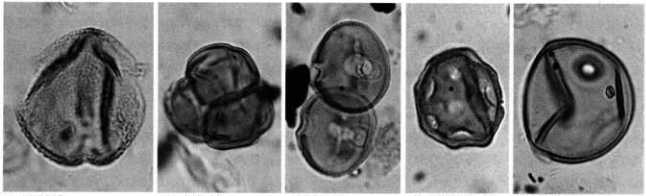
学名	分類群 和名	発掘区北壁 43層	51層
Arboreal pollen	樹木花粉		
Abies	モミ属	2	3
Tsuga	ツガ属	1	1
Pinus subgen.Diploxylon	マツ属複維管束亜属	5	4
Cryptomeria japonica	スギ	11	19
Sciadopitys verticillate	コウヤマキ	1	1
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	1	2
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ	1	1
Alnus	ハンノキ属	2	1
Betula	カバノキ属	1	2
Corylus	ハシバミ属		1
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属－アサダ		2
Castanea crenata	クリ	7	5
Castanopsis	シイ属	53	83
Quercus subgen.Lepidobalanus	コナラ属－コナラ亜属	13	14
Quercus subgen.Cyclobalanopsis	コナラ属－アカガシ亜属	271	262
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属－ケヤキ	1	4
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属－ムクノキ		4
Mallotus japonicus	アカメガシワ	1	1
Ilex	モチノキ属	1	1
Camellia	ツバキ属	1	1
Elaeagnus	グミ属	1	1
Styrax	エゴノキ属		1
Olcaceae	モクセイ科		1
Ericaceae	ツツジ科	1	1
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属－ガマズミ属		2
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木草本花粉		
Moraceae-Urticaceae	クワ科－イラクサ科	1	
Leguminosae	マメ科	1	
Araliaceae	ウコギ科	1	
Nonarboreal pollen	草本花粉		
Typha-Sparganium	ガマ属－ミクリ属	1	
Alisma	サジオモダカ属	1	
Gramineae	イネ科	11	4
Cyperaceae	カヤツリグサ科	2	
Polygonum sect.Persicaria	タデ属サナエタデ節	1	1
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科－ヒユ科	3	
Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ		1
Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属－フサモ属	1	
Labiatae	シソ科	1	2
Lactucoideae	タンポポ亜科	1	
Artemisia	ヨモギ属	1	3
Fern spore	シダ植物胞子		
Monolate type spore	単条溝胞子	9	5
Trilate type spore	三条溝胞子	3	2
Arboreal pollen	樹木花粉	375	418
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	3	
Nonarboreal pollen	草本花粉	23	11
Total pollen	花粉総数	401	429
	試料1cm³中の花粉密度	1.8 $\times10^5$	2.4 $\times10^5$
Unknown pollen	未同定花粉	2	4
Fern spore	シダ植物胞子	12	7
Helminth eggs	寄生虫卵	(−)	(−)
	明らかな消化残渣	(−)	(−)



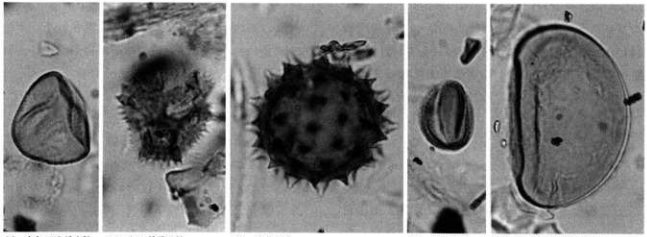
1 スギ　2 コウヤマキ　3 サワグルミ　4 ハンノキ属　5 カバノキ属



6 シイ属　7 コナラ属コナラ亜属　8 コナラ属アカガシ亜属　9 ニレ属-ケヤキ　10 モチノキ属



11 ツバキ属　12 ツツジ科　13 マメ科　14 サジオモダカ属　15 イネ属型



16 カヤツリグサ科　17 タンポポ亜科　18 キク亜科　19 ヨモギ属　20 シダ植物単条溝胞子

花粉・胞子の顕微鏡写真

10 μm

Ⅱ．珪藻分析（第461次）

1. はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映していることから、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

2. 試料

試料は、油坂遺跡の発掘区北壁の43層（試料A）、51層（試料B）より採取された堆積物2点である。43層は暗灰色シルトで縄文土器包含層、51層は青灰色シルトである。

3. 方法

試料には以下の物理化学処理を施し、プレパラートを作成した。

1）試料から1cm³を秤量する。

2）10％過酸化水素水を加え、加温し反応させながら、1晩放置する。

3）上澄みを捨て、細粒のコロイドおよび薬品の水洗を行う。水を加え、1.5時間静置後、上澄みを捨てる。この操作を5、6回繰り返す。

4）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下し乾燥させる。マウントメディアによって封入しプレパラートを作成する。

プレパラートは生物顕微鏡で600～1500倍で検鏡し、直線視野法により計数を行う。計数は、同定・計数は珪藻被殻が100個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

4. 結果

試料から出現した珪藻は、貧塩性種（淡水生種）35分類群である。計数された珪藻の学名と個数を表に示す。また試料1cm³中の珪藻総数を算定したダイアグラムを図に示す。

1）試料B

止水性種で沼沢湿地付着性種群の*Eunotia minor*の出現率が非常に高い。また、流水性種、沼沢湿地付着性種群の*Navicula elginensis*、*Stauroneis smithii*、*Gomphonema parvulum*や流水性が不定生の*Stauroneis* sp.なども検出される。

2）試料A

止水性種で沼沢湿地付着性種群の*Eunotia minor*、流水性種では沼沢湿地付着性種群の*Navicula elginensis*、中～下流性河川指標種群の*Gomphonema parvulum*、*Achnanthes lanceolata*、流水性が不定生の*Cymbella silesiaca*、*Cocconeis placentula*、*Navicula pupula*、陸生珪藻の*Amphora montana Navicula muticа*などが比較的多く検出される。

5. 珪藻分析から推定される堆積環境

1）試料B

止水性種で沼沢湿地付着性種群の出現率が非常に高い。また、流水性種や流水性が不定生な珪藻も比較的多く検出され、流水の影響を受ける止水域の環境が示唆される。

2）試料A

止水性種、沼沢湿地付着性種群、流水性種、中～下流性河川指標種群、流水性が不定生の珪藻や陸生珪藻など多様に検出される。不定性の種類が多いが沼沢湿地付着性種群と中～下流性河川指標種群が伴われるため、沼沢から湿地の環境であれ、流水の流れ込む環境であったと推定される。下位の51層よりも陸生珪藻の占める割合が増加し、周囲に湿地が分布していたと考えられる。

6. まとめ

油坂遺跡の発掘区北壁の43層（試料A）、51層（試料B）より採取された堆積物において珪藻分析を行った。その結果、下位の51層では流水の影響を受ける止水域の環境が示唆された。43層では沼沢から湿地の環境が推定され、流水の影響も示唆された。

（株式会社　古環境研究所）

参考文献

Hustedt, F. (1937-1938) Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomcenFlora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch. Hydrobiol, Suppl.15, p.131-506.

Patrick, R. eimer, C. W. (1966) The diatom of the United States, vol.1. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 644p.

Lowe, R. L. (1974) Environmental Requirements and pollusion tolerance of fresh-water diatoms. 333p., National Environmental Reserch. Center.

Patrick, R.eimer, C. W. (1975) The diatom of the United States, vol.2. Monographs of Natural Sciences of Philadelphia, No.13, The Academy of Natural Siences of Philadelphia, 213p.

Asai, K. &, Watanabe,T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom,10, p.35-47.

小杉正人（1986）「陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－」『植生史研究』第1号，植生史研究会，p.29-44.

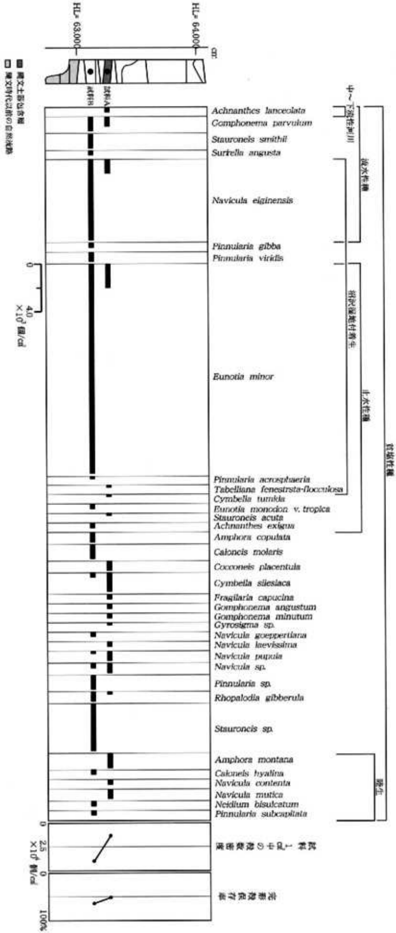
小杉正人（1988）「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用」『第四紀研究』27，p.1-20.

安藤一男（1990）『淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用』東北地理42，p.73-88.

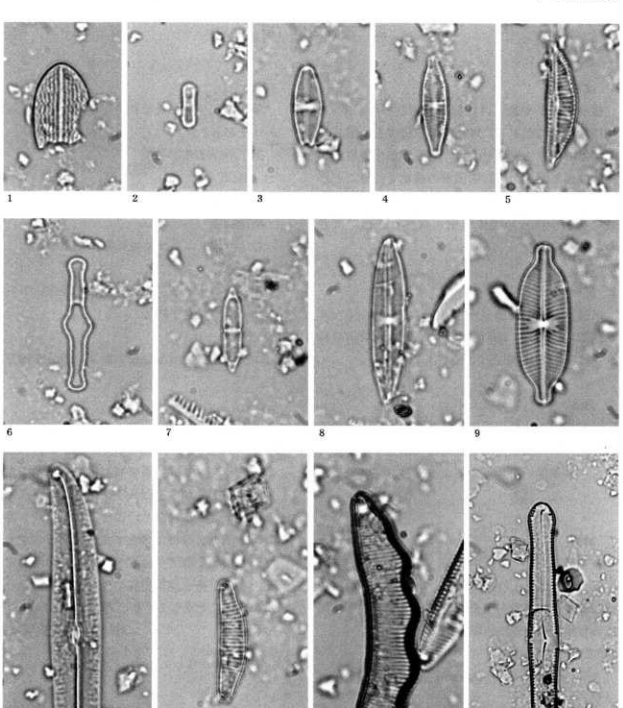
伊藤良永・堀内誠示（1991）「陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用」『珪藻学会誌』6，p.23-45

珪藻分析結果

分類群	発掘区北壁 試料A	試料B
貧塩性種（淡水生種）		
Achnanthes exigua		2
Achnanthes lanceolata	2	
Amphora copulata		4
Amphora montana	6	
Caloneis hyalina		2
Caloneis molaris		6
Cocconeis placentula	4	
Cymbella silesiaca	8	2
Cymbella tumida	1	
Eunotia minor	10	88
Eunotia monodon v. tropica		2
Fragilaria capucina	2	
Gomphonema angustum	2	
Gomphonema minutum	2	
Gomphonema parvulum	4	6
Gyrosigma sp.	1	
Navicula contenta	2	
Navicula elginensis	6	34
Navicula goepperiana		2
Navicula laevissima	2	
Navicula mutica	4	
Navicula pupula	4	1
Navicula sp.	4	2
Neidium bisulcatum		2
Pinnularia acrosphaeria		1
Pinnularia gibba		2
Pinnularia sp.		6
Pinnularia subcapitata		2
Pinnularia viridis		4
Rhopalodia gibberula	1	4
Stauroneis acuta	1	
Stauroneis smithii		6
Stauroneis sp.		20
Surirella angusta		2
Tabellaria fenestrata-flocculosa	1	
合　計	67	200
未同定	12	22
破片	78	124
試料1cc中の殻数密度	1.3 $\times 10^4$	4.0 $\times 10^4$
完形殻保存率（%）	50.3	64.2


HL= 63.000
HL= 64.000
縄文土器包含層
縄文時代以前の自然流路
試料A
試料B
4.0 ×10³ 個/cd
Achnanthes lanceolata
Gomphonema parvulum
Stauroneis smithii
Surirella angusta
Navicula elginensis
Pinnularia gibba
Pinnularia viridis
Eunotia minor
Pinnularia acrosphaeria
Tabellaria fenestrata-flocculosa
Cymbella tumida
Eunotia monodon v. tropica
Stauroneis acuta
Achnanthes exigua
Amphora copulata
Caloneis molaris
Cocconeis placentula
Cymbella silesiaca
Fragilaria capucina
Gomphonema angustum
Gomphonema minutum
Gyrosigma sp.
Navicula goeppertiana
Navicula laevissima
Navicula pupula
Navicula sp.
Pinnularia sp.
Rhopalodia gibberula
Stauroneis sp.
Amphora montana
Caloneis hyalina
Navicula contenta
Navicula mutica
Neidium bisulcatum
Pinnularia subcapitata
中~下流性河川
流水性種
沼沢湿地付着生
止水性種
陸生
2.5 ×10⁶ 個/cd
100%

珪藻ダイアグラム



1. *Cocconeis placentula* 2. *Navicula contenta* 3. *Navicula mutica* 4. *Gomphonema parvulum* 5.*Cymbella silesiaca*
6. *Tabelliana fenestrsta-flocculosa* 7. *Stauroneis smithii* 8. *Stauroneis sp.* 9. *Navicula elginensis* 10. *Gyrosigma sp.*
11. *Eunotia minor* 12. *Eunotia monodon v. tropica* 13. *Pinnularia acrosphaeria*

珪藻の顕微鏡写真

Ⅲ. 種実同定（第461次）

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靭なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

2. 試料

試料は、油坂遺跡（HJ第461次）のSK05（断面採取）、SK06、SK07の各縄文時代土坑より採取された植物遺体3点である。

3. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示した。

4. 結果

(1) 分類群

樹木3が同定された。学名、和名および粒数を表に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に同定の根拠となる形態的特徴を記す。

〔樹木〕

クリ　*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.　堅果　ブナ科

堅果は三角状扁円形を呈す。一側面は円みがあり、反対面は平らな形が多い。両面とも円みがある。

コナラ属アカガシ亜属　*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*　堅果・殻斗　ブナ科

堅果は長楕円形を呈する。先端の花柱基部は短い突起状である。

殻斗は黒褐色でゆるやかな椀状を呈し、輪状紋がある。

ヤブツバキ　*Camellia japonica* L.　種子　ツバキ科

種子は黒色で三角状楕円形を呈し、一端に点状のへそがある。

(2) 種実群集の特徴

1) SK05

コナラ属アカガシ亜属堅果が同定された。

・断面採取

コナラ属アカガシ亜属堅果が同定された。

2) SK06

クリ、コナラ属アカガシ亜属の堅果、殻斗、ヤブツバキが同定された。

3) SK07

コナラ属アカガシ亜属の堅果、殻斗が同定された。

5. 所見

ヤブツバキは照葉樹であり、照葉樹林の構成要素である。クリは、温帯域に広く自生するが、特に暖温帯上部から冷温帯下部に多い落葉高木である。種子は食用となる。コナラ属アカガシ亜属は温帯下部の暖温帯に分布する照葉樹林の主要高木である。種子はアク抜きをすれば優良な食用となる。どの樹種も照葉樹林の構成要素であり、本遺跡の周辺に生育していたと考えられる。

（株式会社 古環境研究所）

参考文献

南木睦彦（1992）「低湿地遺跡の種実」『月刊考古学ジャーナルNo.355』ニューサイエンス社，p.18-22

南木睦彦(1993)『葉・果実・種子』第四期学会編，第四期試料分析法，東京大学出版会，p.276-283

種実同定結果

分類群				SK05		SK06	SK07
学名		和名	部位	断面採取			
Arbor		樹木					
Castanea crenata	Sieb. et Zucc.	クリ	堅果			1	
Quercus subgen.	*Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	堅果	2	3	7	16
			殻斗			1	1
Camellia japonica	L.	ヤブツバキ	種子			1	
Total		合計		2	3	10	17

1 クリ堅果 ― 1.0mm

2 コナラ属アカガシ亜属堅果 ― 1.0mm

3 ヤブツバキ種子 ― 1.0mm

種実の顕微鏡写真

Ⅳ. 放射性炭素年代測定（第461・479次）

1．試料と方法

試料名	調査次数	種類	前処理・調整	測定法
試料C	HJ461次	樹木	酸-アルカリ-酸洗浄，ベンゼン合成	β線計数法
試料D	HJ479次	樹木	酸-アルカリ-酸洗浄，ベンゼン合成	β線計数法

2．測定結果

試料名	^{14}C年代（年BP）	δ^{13}C（‰）	補正^{14}C（年BP）	暦年代（西暦）	測定Ｊ (Beta-)
試料C	2400±60	-29.0	2340±60	交点：cal BC400	160116
				1σ：cal BC410～380	
				2σ：cal BC740～710,	
				：cal BC530～360,	
				：cal BC290～230	
試料D	2590±60	-28.4	2530±60	交点：cal BC780	171683
				1σ：cal BC790～750,	
				：cal BC700～540	
				2σ：cal BC810～420	

1) ^{14}C年代測定値

試料の^{14}C/^{12}C比から，単純に現在（1950年AD）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は，国際慣例に従って5,568年を用いた。

2) δ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C/^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3) 補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り，^{14}C/^{13}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4) 暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には，年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値，およびサンゴのU-Th年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベース（"INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998,Radiocarbon 40(3)）により，約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし，10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり，今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは，補正^{14}C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ（68%確率）・2σ（95%確率）は，補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって，複数の交点が表記される場合や，複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

奈良市埋蔵文化財調査概要報告書
平成13年度

平成17年 3月 15日印刷

平成17年 3月 31日発行

編集　文化財課 埋蔵文化財調査センター

発行　奈 良 市 教 育 委 員 会
（奈良市二条大路南1丁目1番1号）

印刷　株 式 会 社　昭 文 社
（奈 良 市 柏 木 町 １７６－１）